

6 国有林野の事業運営

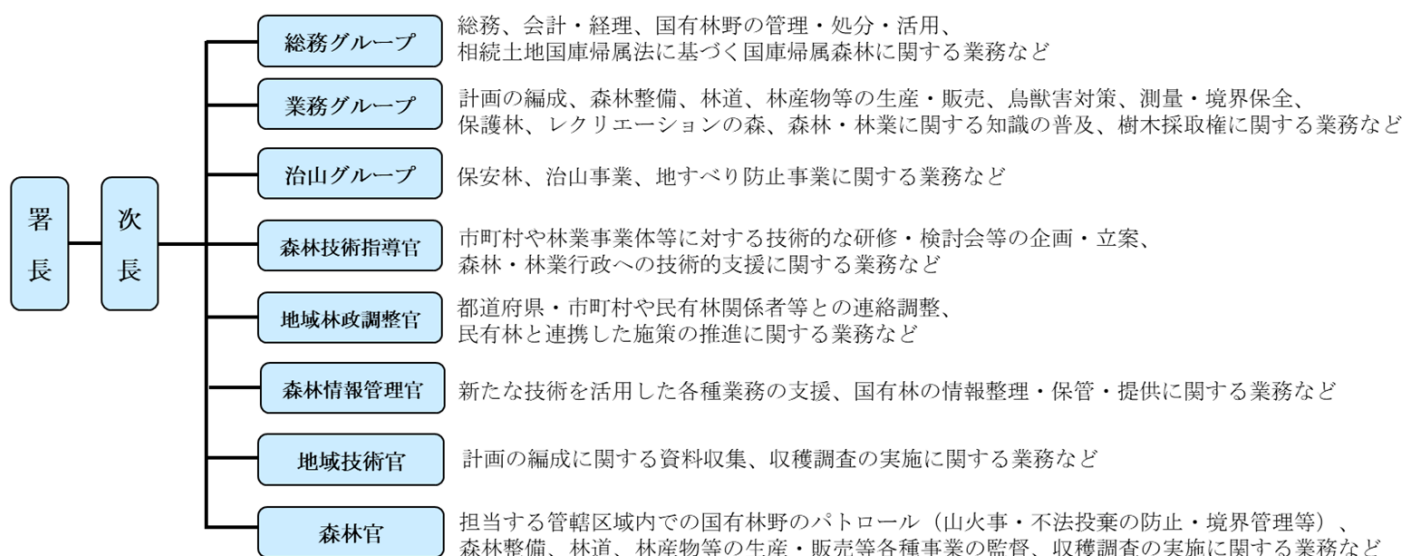
(1) 管理経営の事業実施体制

国有林野事業は、ブロック単位の7森林管理局、流域単位の98森林管理署等の下、情報システムの活用等に取り組み、効率的な管理経営に努めています。

国有林野事業における森林整備等の実施については、民間事業者への委託を基本としており、伐採(素材生産)や植栽及び保育について、そのすべてを民間委託により実施しました。

なお、林業の現場での労働安全衛生の確保が図られるよう、契約時における安全指導や請負実行中の現場巡視等に引き続き取り組んでいます。

図－11 代表的な森林管理署の事業実施体制



表－23 請負事業等における重大な災害の発生状況

区 分		重大な災害の発生件数		
		令和 5 (2023) 年度	令和 6 (2024) 年度	令和 7 (2025) 年度
請負事業	素材生産・造林請負	3	3	2
	林道	0	0	2
	治山	1	0	0
	その他	0	0	0
立木販売		0	5	2
合 計		4	8	6

注：重大な災害は、①死亡災害、②労働者災害補償保険法施行規則別表第 1 の障害等級表の等級区分中、第 1 級から第 3 級までに該当すると思われる災害、③同一災害で 3 名以上の被災者を出した災害、④第三者を死傷させた事故、⑤その他特に異例な事故又は災害である。

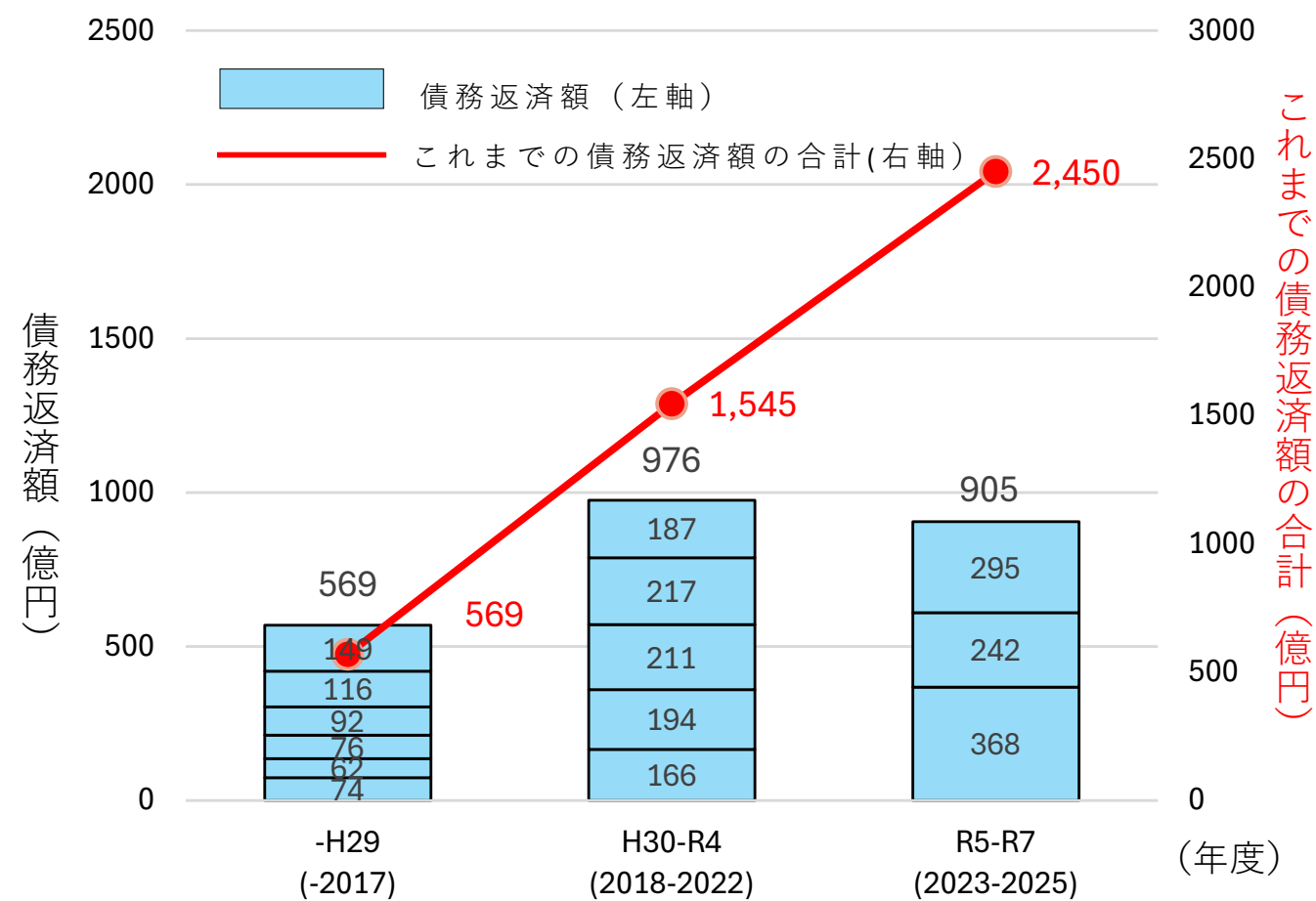
(2) その他事業運営に関する事項

ア 計画的かつ効率的な事業の実行

国有林野の管理経営に当たっては、適切な森林整備を通じた収穫量の計画的な確保やコスト縮減等による計画的かつ効率的な事業の実行に努めています。

平成 24 (2012) 年度末に国有林野事業特別会計に属していた債務 1 兆 2,721 億円については、一般会計への移行に伴い設置された国有林野事業債務管理特別会計に承継し、林産物収入等により返済することとされており、令和 7 (2025) 年度は 295 億円の返済を行い、これまでの債務返済額は合計して 2,450 億円となっています。

図－12 国有林野事業の債務返済状況



注：1 金額は四捨五入した値である。
2 -H29 (-2017) の累積債務返済額は平成 29 (2017) 年度末時点、
H30-R4 (2018-2022) の累積債務返済額は令和 4 (2022) 年度末時点、
R5-R7 (2023-2025) は令和 7 (2025) 年度末時点の額。

表－24 国有林野事業収入の状況 (単位：億円)

区 分	令和 5 (2023) 年度	令和 6 (2024) 年度	令和 7 (2025) 年度
林産物等収入	375	352	353
貸付料収入	29	29	28
林野・土石売払代	9	5	5
計	413	386	387

注：計の不一致は、四捨五入による。

林産物等販売の状況

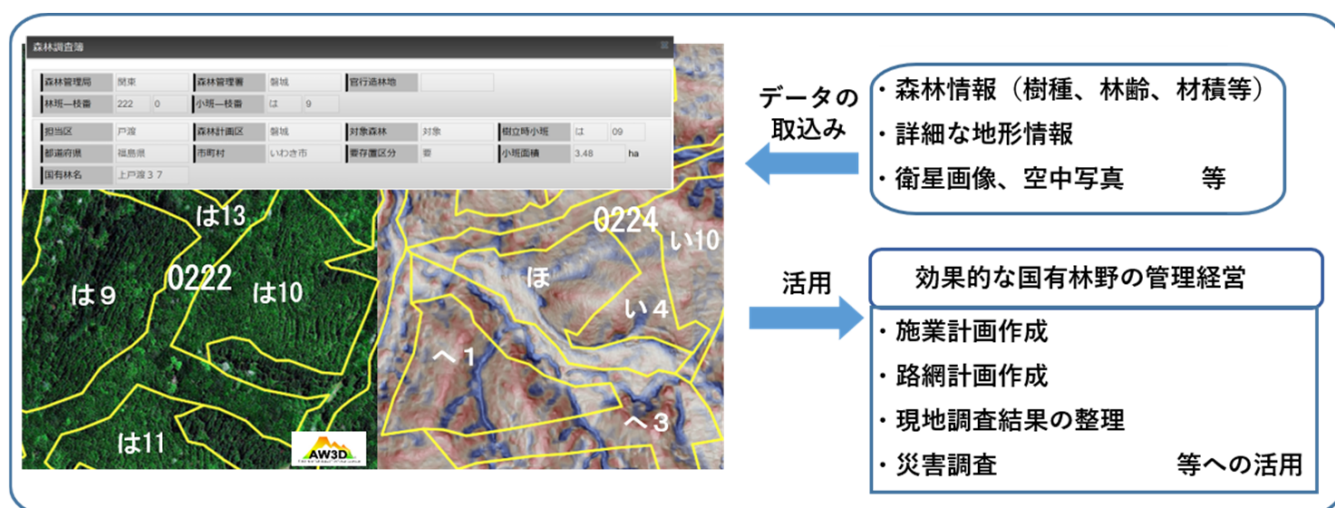
https://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/jissi/zuhyou.html



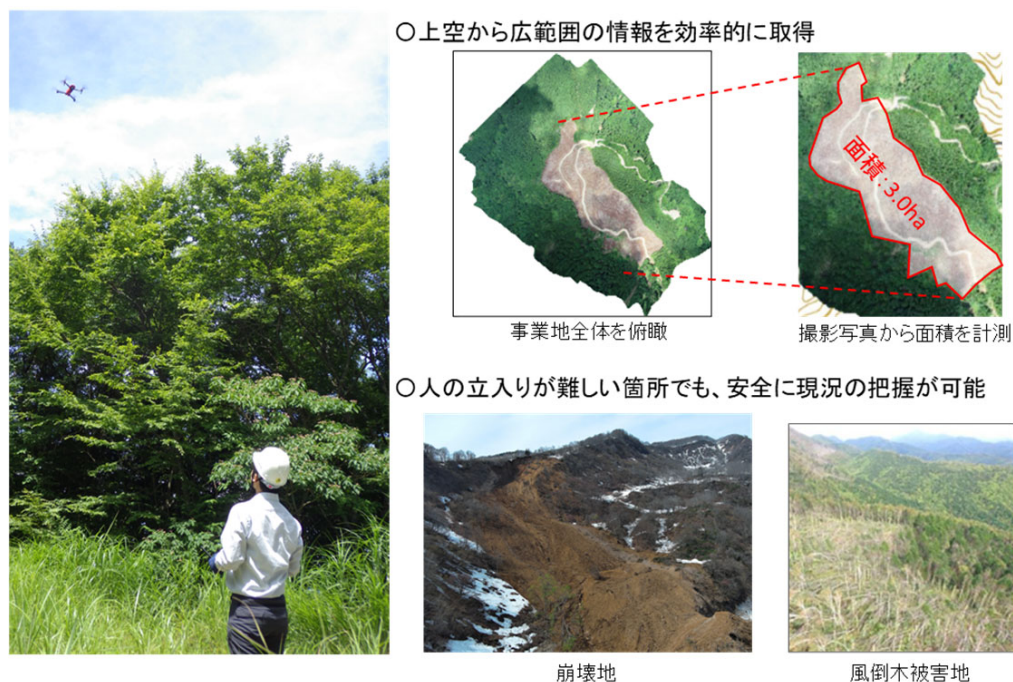
イ デジタル化等による業務の効率化の推進

事業実施に当たって、業務基盤となる国有林野情報管理システム*等のデータを広く活用するとともに、衛星画像や詳細な地形情報等が利用できる国有林 GIS*、森林調査等へのドローンやレーザ計測、衛星測位システム (GNSS)*等を活用し、施業計画の作成をはじめ、森林施業や路網整備、災害対応等の様々な業務の効率化に取り組んでいます。

図－13 国有林 GIS の活用



図－14 ドローンの活用



事例 23 業務の DX に向けた IT チームの結成

(北海道森林管理局 業務調整課)

IT TEAM NEWS
Vol.06 ITで業務改善！ITチーム2年目始動 【掲載先2:北海道森林管理局内限り】 2025.12.23

令和7年度第1回勉強会開催

11月25、26日に今年度初となるITチーム勉強会を開催しました。今年度はコアメンバー4名、サポートメンバー14名、事務局(業務調整課)で活動します。

はじめに、新メンバーでの活動となるため昨年度の振り返りを行い、プロジェクトの成果や反省点をWeb会議を併用しチーム内で情報共有しました。昨年度は、「QGIS基礎データセット」の作成、「ITチーム新聞」の発行、「SharePoint」サイトの作成、各課へ業務効率化に向けた働き取り等を行いました。

次に、令和7年度の活動方針とチーム運営ガイドラインを決定しました。

その後、アイスブレイクでは、新しいメンバーを迎え入れる中で、お互いの得意分野ややってみたいことを共有し、チームの絆を深める時間となりました。さらに、新しいプロジェクトチームを立ち上げ、コアメンバーが中心となり、メンバー同士が協力してツール開発を行っていくことが決まりました。

勉強会 (2025.11.25) の様子

★ITチームのこれまで

令和6年5月に誕生した「ITチーム」は、事務・業務改善を図るため、さまざまなツールの開発や検証に取り組んできました。活動中で行われた勉強会では、事務・業務改善の事例を共有し、ツールの活用方法について意見交換を行いました。開発したツールは「ITチーム新聞」で発信し、課題解決や事務の効率化に貢献してきました。

★チーム2年目

令和7年度も活動を継続するため、7月に新メンバーを募集し、8月から新しい仲間とともにスタートしました。チーム設立後は、Microsoft Teams等を活用しながらツールの検証や情報交換を重ねています。

★今後の展望

今後は、開発したツールや活用事例を紹介するホームページを更新し、より多くの職員が使いやすい環境づくりを進めていきます。

ITを活用した業務改善の取り組みは、まだまだ広がります。課題解決に向けて、ITチームのプロジェクトが始動します。

編集後記 新たなメンバーを迎え、11月に開催した勉強会と打ち合わせを通じて、各メンバーのプロジェクトへの意欲が強く感じました。勉強会では、専門用語が飛び交い、正直には検索しないと理解できないものもありました(汗)皆さんからの声は、ITチームのモチベーションにつながります。ぜひ、投稿フォームからご感想をお寄せください！(深)

★ITチームや各種ツール・マニュアルについては「ITチームのSharePointサイト」
★ITチーム新聞への意見・感想のある方は「読者の声 投稿用フォーム」

【発行】北海道森林管理局ITチーム (vol.06)



- さっぽろ
- ・ 北海道札幌市 北海道森林管理局
 - ・ (左) IT チーム新聞
(令和7(2025)年12月)
 - (右) 勉強会の様子
(令和7(2025)年11月)

森林管理局・署等では、国有林野の管理経営に加え、各地域における災害対応や民有林支援等、業務が増加しているため、各業務の効率化が課題となっています。

北海道森林管理局では、令和6(2024)年度に業務の効率化に向けたツール開発や職員への普及を担うITチームを結成しました。

ITチームでは、GISをより容易に活用できるデータセットの作成や、スマートフォンに搭載されたレーザ計測機能の活用などに取り組んできました。

こうした取組状況は、「ITチーム新聞」を継続的に発行することで、局内の職員へ周知してきました。また、令和7(2025)年度には、職員全体の技術向上のため、森林管理局・署等の職員に向けた勉強会を開催しました。

同局では、引き続き、職員からの意見やアイデアを活かした業務のDXに向けた取組を推進していきます。

ウ 安全・健康管理対策の推進

令和 7 (2025) 年度の職員の災害の発生件数は 19 件で、令和 6 (2024) 年度と比べて 9 件減少しました。

引き続き、重大災害の根絶はもとより、災害の未然防止に向けた取組を推進するとともに、日頃から職員のストレス状況の把握や要因の軽減等心の健康づくり対策にも力を入れることにより、職員の安全確保と心身両面にわたる健康づくりを進めています。

表－25 職員の災害の発生状況

(単位：件)

区 分	災害発生件数			
	死亡	重傷	軽傷	合計
令和 5 (2023) 年度	0 (0)	8 (24)	25 (76)	33 (100)
令和 6 (2024) 年度	0 (0)	7 (25)	21 (75)	28 (100)
令和 7 (2025) 年度	0 (0)	4 (21)	15 (79)	19 (100)

注 1：重傷は、休業日数 8 日以上を負傷である。

2：() 書は、合計に占める災害の程度別の比率 (%) である。